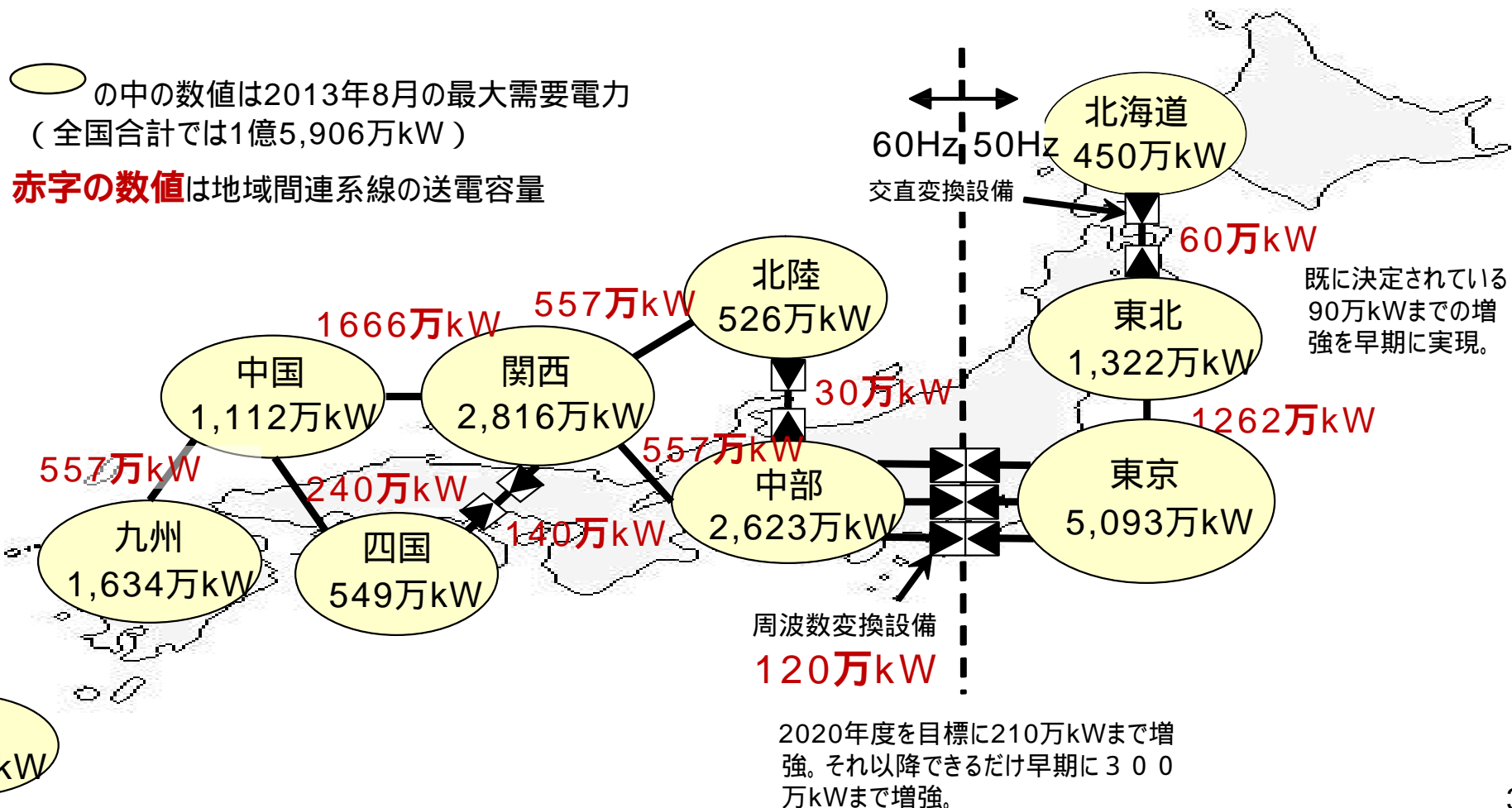


我が国の送配電網

- これまで、電力会社の供給エリアごとに送配電網が整備されてきた。
- このような歴史的経緯から、エリア間の「地域間連系線」や、東日本と西日本とを繋ぐ周波数変換設備の容量が小さい



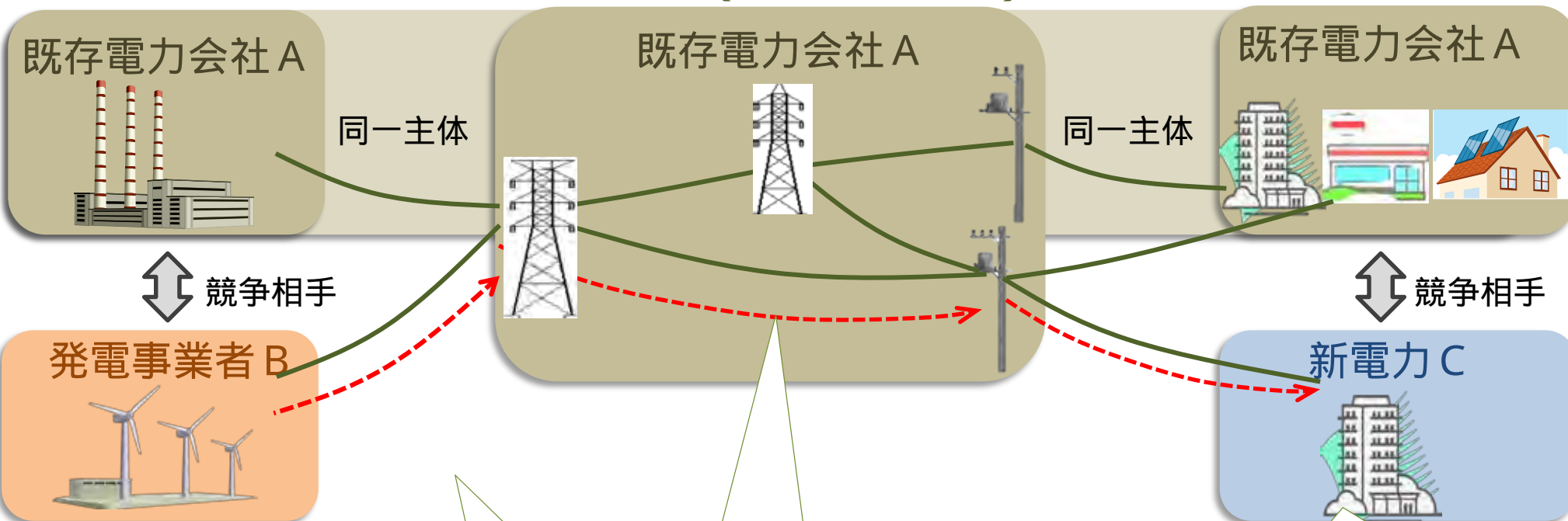
送配電部門の中立化

- 誰でも公平・平等に送配電網を利用できるように、送配電部門を独立（発送電分離）。
- 主要な先進国においても、小売の全面自由化の際には発送電分離が通例。
- 2020年4月1日に、送配電部門は発電・小売部門とは別会社化（法的分離）。

発電（競争部門）

送配電（独占の規制部門）

小売（競争部門）



中立性を損なう
問題の例

自社の発電所の
接続を優先

送配電部門の利用
ルールが公平に適用
されない

送配電事業で知り得た
情報を自社営業に目的
外利用

2015年4月～9月期（以下「当期間」という。）における主要指標は、次の通り。

		今回の御報告内容		（参考）前年同期間		
		'15年4月～'15年9月		（'14年4月～'14年9月）		
卸電力取引所	スポット市場	入札	売入札量前年対比	1.1倍	1.2倍	1.3倍
			買入札量前年対比	1.2倍	1.1倍	1.2倍
		約定	約定量	76億kWh	63億kWh	124億kWh
			約定量前年対比	1.2倍	1.2倍	1.2倍
			平均約定価格 （システムプライス）	10.9円/kWh	15.5円/kWh	14.7円/kWh
	東西市場分断発生率		54%	26%	29%	
	時間前市場	約定	約定量	6.6億kWh	4.7億kWh	8.6億kWh
			約定量前年対比	1.4倍	1.0倍	1.0倍
			平均約定価格 （システムプライス）	10.8円/kWh	15.4円/kWh	14.4円/kWh
	販売電力量に対するシェア		2.0%	1.6%	1.5%	
小売市場 （参考） ¹	販売電力量	総販売電力量	4,166億kWh	4,192億kWh	8,554億kWh ²	
		特定規模需要	2,718億kWh	2,740億kWh	5,378億kWh	
		新電力	205億kWh	153億kWh	315億kWh	

1 出所：経済産業省資源エネルギー庁電力調査統計

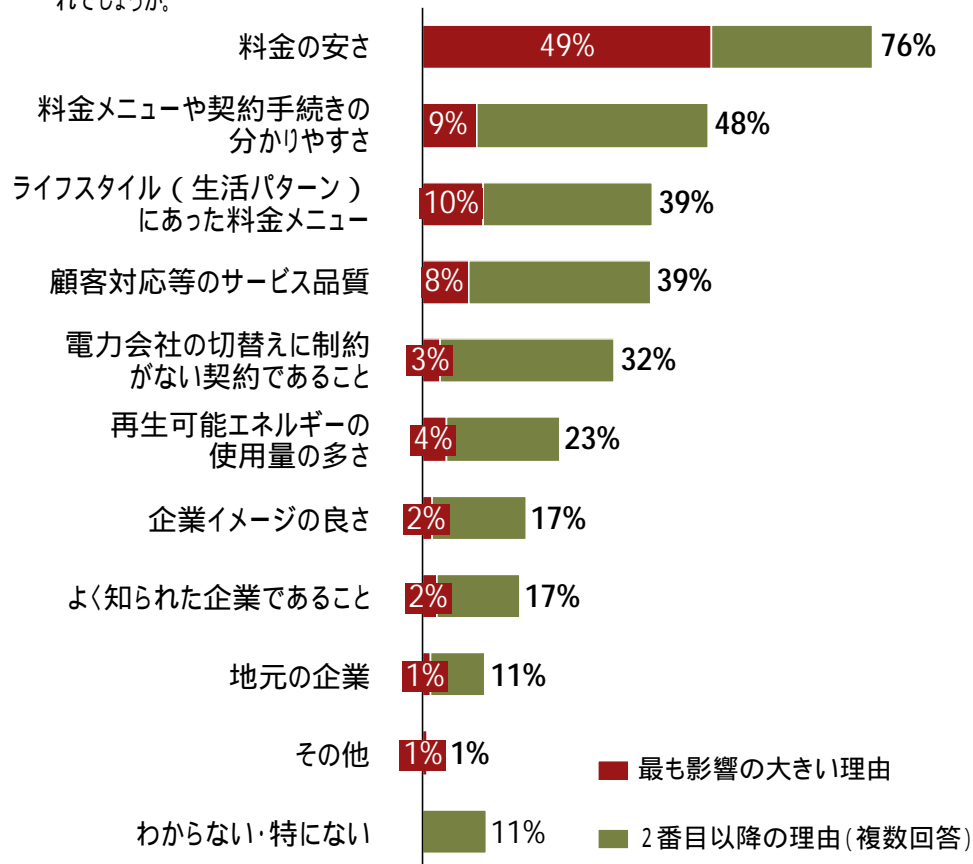
2 電力調査統計の訂正に伴い、前回「8,529億kWh」より更新

電力会社選定時の一番のポイントは料金水準。さらに、料金メニューや契約手続きの分かりやすさや、料金メニューが自分に合っているか、サービス品質といった、消費者にとっての直接的な便益が重視される傾向にあり、よく知られている企業であるかといった要素はあまり重視されていない。

電力会社の選択時に重視する項目

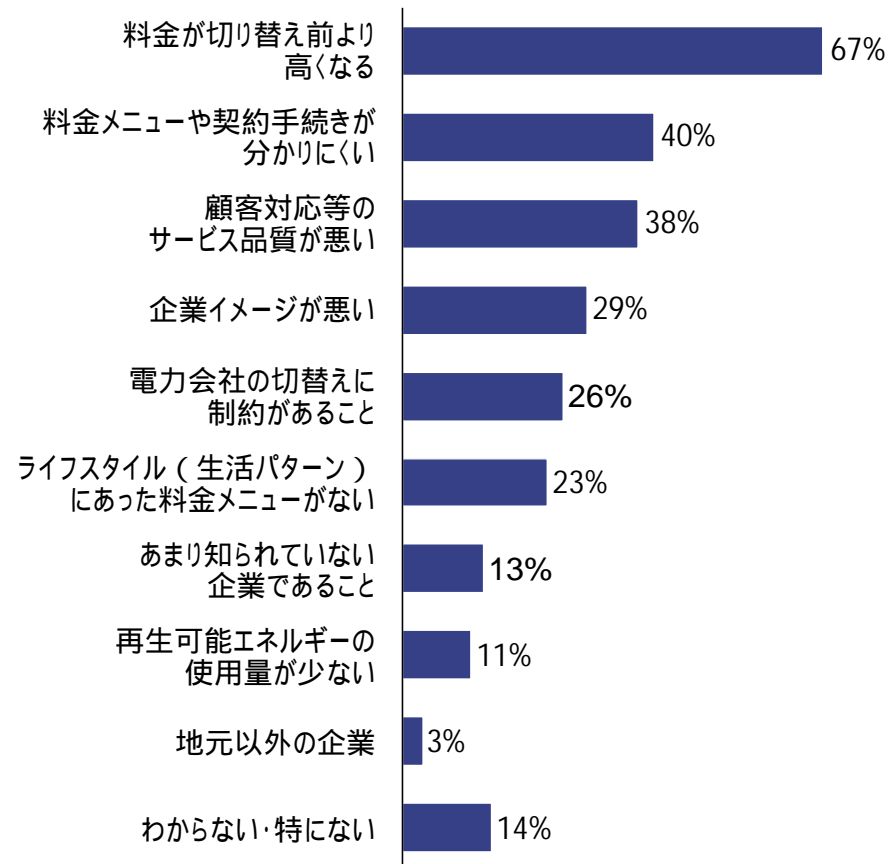
Q 今後、あなたが電気を購入する電力会社を選択する場合、何を重視して選択することになるとお考えですか。あてはまるものをすべてお選びください。(いくつでも)

Q 電力会社を選択する場合に重視すると回答されたもののうち、一番重視するものはどれでしょうか。



他の条件が良くても、これに該当したら選択しないという要素

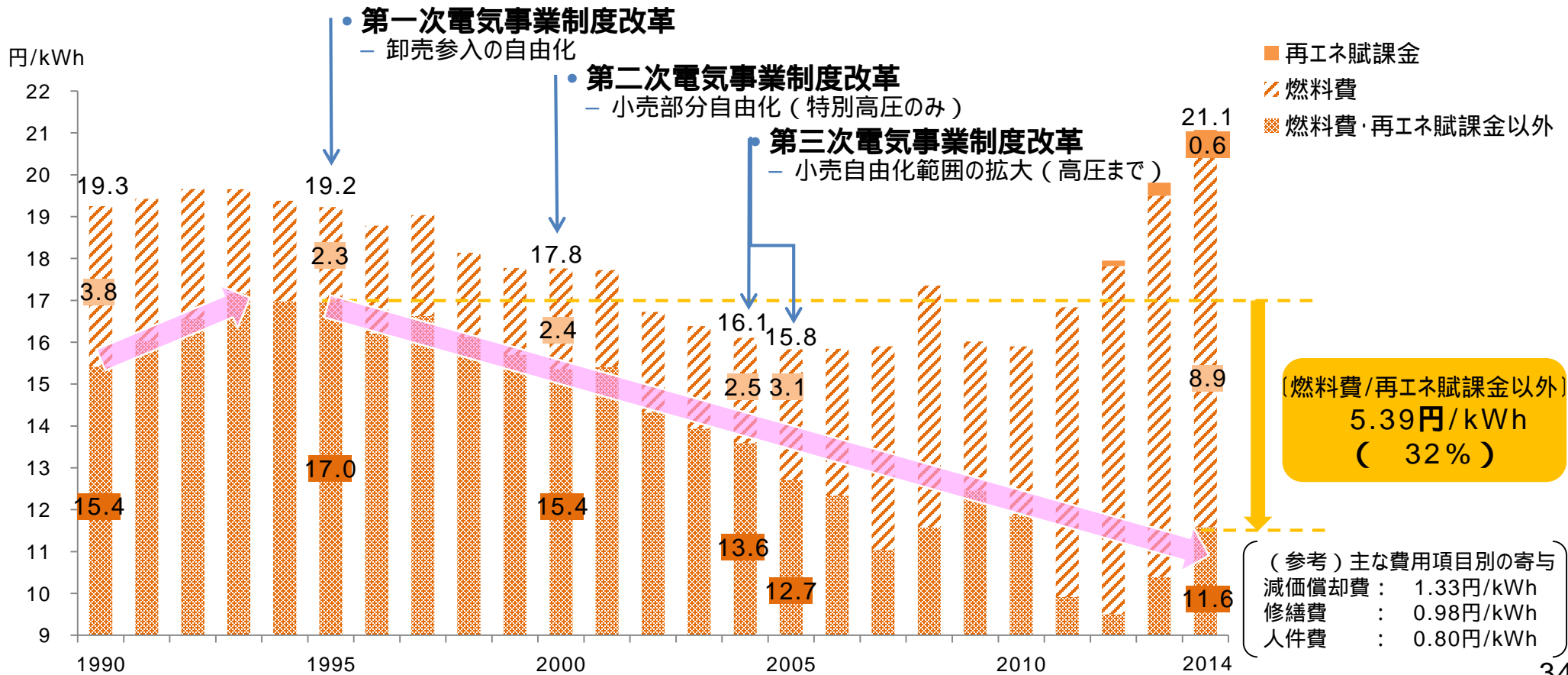
Q 電力会社を選択する場合に、他の条件が良くても、これに該当したら選択しない、という要素はどれでしょうか。あてはまるものをすべてお選びください。(いくつでも)



我が国におけるこれまでの電力システム改革の成果（コストの低減）

- これまでの制度改革により、電力会社のコストは着実に低減。
- 震災以降の燃料費増で料金は上昇したが、燃料費・再エネ賦課金以外は32%低下。

電気料金（電灯・電力）の推移（円/kWh）



誰から買っても家庭に届く電気の「質」は同じです

- Ⅰ ある発電所で発電した電気は送電線の中で他の発電所で発電した電気と混ざる。
- Ⅰ これは複数の蛇口（＝発電所）からプール（＝送電線）に注がれた水（＝電気）が、プールの中で混ざり合うことと同様。
- Ⅰ 家庭で電気を使う際には、プールで混ざり合った水が水道から出てくることと同様に、どの発電所で発電された電気か区別されずに届けられることになる。

発電

「電気をつくる」

送配電

「電気を運ぶ」

小売

「電気を売る」

